

NPO 法人コスモ夢舞台

フクロウだより

Vol.8
第4号



平成29年4月13日

4月に入って開花が遅れ気味だった東京千鳥ヶ淵の桜も、葉桜に変わりつつあります。会員の皆さまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

その後、桜前線も順調に北上していますが、皆さまも随所でお花見やら夜桜見物を楽しまれたのではないのでしょうか？

豊実では桜の満開までには間があるようですが、佐藤さんは相変わらず精力的に活動されています。先日は長岡市にマキ子さんと下見に出向き、火焰土器のモニュメントの修復作業には古田さんと汗を流されたようです。修復されたモニュメントに、我われも何時かお目にかかりたいものです。

さて、今年の春の会員集合日は5月3～7日となっています。5日（金・こどもの日）に総会があります。何かとお忙しい最中とは思いますが、ぜひスケジュールを調整していただき、豊実にお出かけくださいますようお願いいたします。

また、6月24日（土）には佐藤さんの母校芝浦工業大学で講演会が開かれます。すでにHPでお読みの方も多いと思いますが、開催に至るまでの経緯にも佐藤さんと大塚さんの間に熱いドラマがあります。何故、ラクビー部のOB会が【佐藤賢太郎・講演会】になるのか、そしてコスモ夢舞台が後援となるのか、ぜひ皆さまも足を運んで、この謎解きをお楽しみいただきたいと思います。

さらに、須賀川市の「ギャラリー・マスガ」（8月5～13日）で【佐藤賢太郎・個展】があります。合わせて、ご検討くださいますようお願いいたします。

（事務局/森絃一）

<直近のイベント予定>

- 農業体験 5/3（木）～7日（日） 春の会員集合日 5日（金）総会 13:30～（無農薬野菜づくりと景観づくり）
- 佐藤賢太郎・講演会 6月24日（土）11:00～15:00 芝浦工業大学（東大宮）
主催：芝浦工業大学ラクビー部OB会 後援：NPO 法人コスモ夢舞台
- 佐藤賢太郎・個展 8/5日（土）～13日（日）須賀川市「ギャラリー・マスガ」（「ギャラリー・マスガ」では9年ぶりの開催）

*尚、「フクロウだより」は今後、ホームページに掲載されます。パソコン等をご利用されない会員の皆さまには、従来通り郵送させていただきます。

2017年3月15日

小宮 和巳さんとの対談

NPO事務処理などを担う方

佐藤：コスモ夢舞台会員になったのは、森紘一さんと同じ大学であったのがきっかけだと思います。県内の私立高校の事務長をされていた時と思いますが、私は小宮さんから講演を依頼されました。それからの付き合いだと思います。

小宮：私がコスモ夢舞台会員となったきっかけは、森紘一さんから誘われたのですが、最初の出会いは、先ほどお話のあった研修会の2か月前に和彩館で開催された座談会に出席させていただいた時だったと思います。このような会に出席することは躊躇がありました。会の活動を知る良い機会かと思い参加したように思います。

ここで皆さんの話に感銘を受け、興味をそそられました。そこで丁度、講師を捜していた県内私学高等学校の事務職研修会に佐藤さんを推薦し、講演していただくことになりました。

佐藤：そうでしたか。印象に残っているのは、埼玉県の行田市役所を訪問したときのことです。その時、新幹線の車中で自分の使命といったことを話されていたと思います。

小宮：あの時は第2の職場も退職し、その後の生活の仕方といいますか在り様について考えていることを話したように思います。一日の全ての時間を自分の好きなように使える中で、今までやりたくてもできなかったのだから、趣味や旅行など好きなことや楽しいことをだけをして過ごせばよいのではないかという仲間も多くいたのです。しかし、それだけでは退屈したり飽きてしまうのではないか、今まで培ってきたものを少しでも社会の役立つものに生かしながら自分自身も生き生きと暮らしたいと思いました。そんな時にコスモ夢舞台に出会い、自分自身も楽しみながらいろいろお手伝いできる役割があるように感じました。そんなことを話したように記憶しています。

佐藤：そうでした。退職後をどう過ごすか、大切だと思います。小宮さんの考えを嬉しく思います。ところで、蛍の川底さらいや草刈など懸命にしている小宮さんを見ていると、いたましいと思ったくらいでした。限界まで動いていたことも印象的でした。どんな心境でした？

小宮：自分自身そんなに無理をして動いているとは思っていないのですが、性分として何事にも中途半端に適当にやるということができないように思います。

佐藤：ギリシャ、フランスに同行しましたが、ハプニングが起きて、大変でしたね。聞くところによると、団体行動であり、ゆっくりしている場合ではないと、団長の大塚さんに叱られた（？）たそうですが、フランスの思い出を話してください。

小宮：初めてのヨーロッパでいろいろありましたが、今になれば、どれも本当に良い経験でした。最初のハプニングはギリシャ空港で受け取ることになっていた成田空港で預けたトランクが、一行9人中6名分が届かなかったことです。他の人のものは全て翌日届きましたが、私のものだけその翌日になりました。ホテルからの連絡はなく、二日目の朝食を食べているとき同行の方から、「小宮さんのトランクがフロントにあったよ」言われ、初めて届いていることを知りました。それから急いで荷物を受理して時間のなかった中、改めて着替え等エーゲ海クルージングに出掛ける準備をしたのですが、焦る気持ちもあってなかなか思うようにいかず、皆さんが乗って待っている港行きのバスを待たせてご迷惑をお掛けしてしまいました。今でも思い出しては後悔しています。また、モントロンでは、近道と想着大な牧場の柵越えをしたりして横切ったのですが、思いのほか時間がかかり、心配をおかけしたこと。シャトゥ（イベント会場の主要建物）でトイレが壊れていて施錠するときには気が付かなかったのですが、開けようとしたらノブがなく中から開けようとしても開けられない。トイレの仕切りは、3メートル程と高く、人の出入りもほとんどないところで助けも求められず、携帯電話も通じない。途方にくれました。暫く思案しましたが、便器の脇に水道の蛇口がありましたので、それらを利用して乗り越えようと思いつき、やっと脱出できたのも忘れられない思い出です。また、ドゴール空港で、日本に送るのに重過ぎるということでもいただいた石像の大きな破片をトランクに詰めて手荷物検査を受けたところパスしない。女性の検査官が何か頻りに説明しているが、私の語学力では到底理解できない。その中で「ウエート」という単語だけがどうにか聞き取れたので、「ウエート、オーバー」を聞き返したところ頷いた。ほっとして検査カウンターの前でトランクを開け、2つの石を取り出し、それを持ち込み手荷物にしたことなど話が尽きないほどいろいろありました。今になればみんな楽しく懐かしい思い出です。

佐藤：本当にトラブル続きでしたね。それが思い出になりましたね。JTBの旅行では、そんなトラブルは添乗員がるので心配ないですね。

ところで、ギリシャに行った目的の一つは私の作品を見ることだったと思いますが、ギリシャでの感想はどうでしたか？ 行った人でないと分からないこともありますが、どうでしょう。

小宮：日本から遠く離れたギリシャで佐藤さんの新しい作品を直接見たときは何とも言えない感慨が湧きあがりました。そして、その台座に自分の名前が刻されているのを発見したときは嬉しく感じました。

今まで書物や写真等でしか知ることのできなかった、世界でも名高いアクロポリス、オリンピア、ミケーネなどの遺跡の現地を訪れることができたことは感激でした。

これらの遺跡を含め、生活、学問、文化等現代文明を担うほとんどの基層部分をギリシャが創造したのだから、破産寸前の我が国を各国が支援することは当然。我が国はオリンピック開催のようにやるときにはやると公然と言い放つ、ギリシャ人のプライドの高さには感心するやら呆れてしまった。

また、私たちが、訪れ、通ったギリシャの各地域は、産業といえば観光と農業しかないように思われ、工業地帯と見える地域はお目にかからなかった。これでは産業の停滞もむべなるかな、と妙に納得したことを記憶しています。

佐藤：何と言っても新潟県で事務処理できる方は小宮さんしかいません。私は事務員を雇いたいところです。ものすごく忙しいです。その点、新潟県内の助成金や講演会、マスコミなどへの連絡をしていただき、その処理報告書を作成していただいています。本当に助かります。

小宮：長年やっていた業務と大して変わりありませんので、楽しみながらやっています。ただ、私は経理マンでなく、加えて役所は単式簿記なので、複式簿記の対応には戸惑いました。

佐藤：助成制度がないとコスモ夢舞台やって行けない現状です。しかし小宮さんは県庁に勤めていたこともあり、私に比べ慎重すぎるとはじめのうちは感じていました。強引さがないとできないと思ったこともありました。

小宮：行政は建前の世界です。全て事務が理論的に整理され制度化されています。筋が悪い、論理的説明できないもの、ゴリ押し等は相手にされません。きちんと論理的に説明しきることが重要です。一旦疑念を抱かれると以後烙印押

され、どんなに素晴らしい立派なことを言っても色眼鏡で見られるなど後遺症を残します。

佐藤：NPOファンドの助成申請があり一緒に行きました。皆さんの前で今の活動を言いまして、ありがたく周遊認可が下りました。2回目は駄目でしょという小宮さんの言葉にやるだけやりましょうと言って、また申請してこれまた通りました。

小宮：あの時のお話は、当初認められた予算では計画通り整備できないから再度申請したいとのことだったので、同じものを予算が足りなくなったからという理由でもう一度申請しても採択されるのは難しいというようなこと話したように記憶しています。そこで、1回目の申請内容になかった障害者や高齢者等が車椅子でも通行できるよう周遊舗装道路とそのための駐車場を新設して、誰もが楽しく触れ合うことのできる田んぼ夢舞台公園として整備するという新しいコンセプトをつくり、このことにより施設が格段に充実し一層利用・存在価値の高いものになることを訴えたことが評価され採択されたと思います。

佐藤：NPO法人としての経理を東京のある会計事務所の好意に甘え、3年ほど助力いただきました。しかし以後、そちらで処理していただいた方がよいということになりました。これには困りました。見てもさっぱりわからない経理の処理でした。それを小宮さんが引き受けてくださることになり、そこでさまざまな問題点が解るようになりました。小宮さんしかできない仕事です。NPO法人コスモ夢舞台の存続を支えて頂いています。

小宮：自分でできるところは、これからもできるだけ頑張っ続けていきたいと思っています。

佐藤：コスモ夢舞台維持には建設など労働力は第一ですが、事務処理なしには成り立ちません。それをこなしてくださる小宮さんに感謝申し上げます。そのほかイベント開催、教育、農業、食、物産開発、ホームページ掲載。今新潟県で地域づくりにコスモ夢舞台が第一に推薦されています。それだけでも凄いことだと言っていました、元県庁に勤めていた小宮さんからの言葉でまとめてください。

小宮：全国表彰を受賞できれば素晴らしいことですが、県から地域づくりの県の代表と推薦されること自体、コスモ夢舞台の活動実績が高く評価されていると誇っていいのではないかと思います。

高齢化の著しいこの地域にとって、スコープボランティアなどの取り組みは高齢者世帯の手助けになるだけでなく、コスモ夢舞台に新風を吹き込むための新しい切り口ではないかと期待しています。今までの実績に加え、このような直接的に地域の生活に役立ついろいろな取り組みを取り込んで、組み合わせながら更に活動を推進していけたら素晴らしいと思っています。

佐藤：味噌づくりに、毎年参加されますがどうしてですか？

小宮：コスモ夢舞台のイベントにはできるだけ参加しようと思っていますが、特に味噌づくりだから参加しているという意識はありません。強いて言えば子供の頃、毎年小千谷の実家で豊実と同じ方法で味噌づくりをしていたことに対する郷愁があるかもしれません。また、この時期は年度末の多忙期で遠い関東在住の皆さんの参加者が少ないだろうから、せめて県内に住んでいるのだから参加しようという気持ちがどこかにあると思います。

2017. 03. 30

佐藤賢太郎さん出会えてよかった

大島 和子

今、佐藤賢太郎制作「太陽の翔」というペンダントを前に原稿を書いています。「太陽の翔とは、燦燦と太陽をふりそそぎ、すべての生命をはぐくむ太陽、それを讃えている、という意味であります。女性は太陽のような存在かもしれない。」ペンダントは、ケースに収められて、この説明書きがあり、落款が押されています。

私は、賢太郎さんの作品に出会い、感動し、コスモ夢舞台の会員（その当時はふくろう会）になり、他の会員の皆さんといろいろな作業をさせて頂いています。女性の支えがなかったらここまでできなかったと。いつも、女性を讃えてくれる賢太郎さん。プレゼントとして贈られたときの喜びは今でも忘れることができません。

この世の全てを、愛している賢太郎さん。それは、作品に表れています。小動物から全世界、宇宙の果てまでも限りなく愛情を注いでいます。労を惜しむことなく、いつも、有言実行です。芸術活動の傍ら、ウーファーとなり、世界中の方たちを受け入れ、生きる私たちにとって一番大切な農を通しての、活動もされています。

そんな賢太郎さんが、3月4日、私の「小さな森の和美術館」にきてくださいました。南東側にあった、壊れかけた古いトイレとお風呂の小屋をこわして、前に植えてあった樹木も全部伐採して下さいました。建物や樹木に隠れて見えなかった、紅枝垂れ桜が、ドーンと目の前に現れて、それはそれは正々堂々としたものです。目の前がパッと開けて、風通しも良くなり、運が開けるようなそんな感じがしました。「景観を良くすることで、桜にとっても、見る側にとってもすごく良い状況です。これで、たくさんの方が訪れますよ。ここなら石のテーブルと椅子がよく似合う。今度は2トントラックが入るように道路の整備をした方がいいですね。それは8月までに自分でやってください。」どのように行うのかの手順も教えて下さり、植木を伐採することなど下準備もして下さいました。協力してくれる友人等と一緒に道路づくりをやる楽しみができました。

思い返せば、「小さな森の和美術館」ができたのも、賢太郎さんのおかげさま

です。賢太郎さんはじめ、コスモ夢舞台の会員の大野さんが手伝ってくれなかったら、何もできなかつたと思います。ひとつひとつ、自分の力でできるように、指導して下さい、手を貸して下さいました。夢を実現させるためには、まず自分で動く。いつも賢太郎さんがおっしゃっている「動いてこそ感動はやってくる」そのものです。

これで終わりということではなく、どんどんアイデアが湧いてきて、それを実現させていく。その力をもらいながら、そして自分も動きながら、これからもコスモ夢舞台の活動に、小さな森の和美術館に力を注いでいきたいと思います。

2017年4月10日

絹代さんとの対談

絹代さんとの縁

佐藤：絹代さんとは、そんなに昔から長い付き合いがあったわけではないのです。新潟県の佐渡出身ですが、家内は絹代さんがガンで入院したことも知っていたようです。

私が教師を辞めて彫刻家に転職する時、恥ずかしながら餞別に私の作品を買ってくださいました。時期は定かではありませんが、時崎庸二さんも独立して間もない時期であったと思いますが、どんな気持ちでしたか。

絹代：主人は昭和54年頃、今から約40年前に勤めを辞めて自分で仕事をするのが夢だと言いました。それを聞いた時はとてもショックで、どうしてと思いました。営業成績も良くて、役職もそれなりで何不自由なかったからです。でもその頃、夫は機関車で妻は客車という言葉を聞きました。主人を信頼してついて行くしかなかったということです。

佐藤：それから捨て犬や捨て猫を拾ってきてよく面倒見ていました。それも怪我した犬や猫の世話をしていました。なかなかできないことですね。

絹代：捨て犬と猫を20匹ぐらい拾いました。捨ててあったという話を聞くだけで拾って来てしまいます。里親を探して、去勢費までつけて何匹かもらってもらいました。一番思い出すのは、交通事故に会った瀕死の状態道路をいざっている犬をみつけた時でした。何日か迷っていいらしいですが、見て見ぬふりが出来ないのです。息子と病院へ連れて行きました。医者は飼い主さんが見つからないと手術は出来ませんと、私がお金を払うから手術をしてほしいお願いしました。我が家に戻ってきた犬は、しっぽは切られ、1本の足はぶらぶらで3本で歩いていました。脊髄をやられていましたから、たれ流しです。と

でも利口な犬で、人間の顔をずっと見ていて、何を言われているか分かる様でした。朝晩2回排便と排尿を押し出してやるのが主人の仕事、力がいるので私にはできません。それを7年間毎日やりました。この事を、ある新聞社が取材に来て新聞に載せてくれました。記事を読んだ方から、ボロ布が送られてきたり、手紙の中に5千円入れたりして下さった方もいました。その犬にある時奇跡がおきました。ぶらぶらしていた足の筋肉をマッサージしていたら、ある時、足がピンと立って4本で歩いたのです。医者は、これは飼い主さんの愛情です、と言っていました。その犬もガンになり、安楽死させました。

佐藤：独立して仕事をするのは難しいことですが、寝ないでも仕事をしたこともあったと聞きますが、順調にこれまでやれたこと、奥さんの努力は勿論ですが、私は二人とも動物を大切にその心があつての事と思います。

絹代：主人が独立したのは50歳で平成元年、マイナスからの出発でした。お客さんもゼロから一軒ずつふやしていきました。営業に出る主人の後ろ姿を神にも祈る気持ちで送り出しました。夫婦の仲が良ければ商売はうまく行くと聞いていたので、喧嘩はできない。また、事故にもつながってもいけない。商売を始めて今年で29年、交通事故もなし、病気したこともなし、一日も休んだこともありません。これも感謝です。

佐藤：コスモ夢舞台のイベントに時崎庸二さんと時々参加していましたね。特に親しくなったのは、わざわざ柿を取りに春日部から豊実にお出でになったころからの印象がありました。

絹代：主人も一人で仕事をしていると、豊実に行くのが気分転換になり、とても楽しみの様でした。最初は一人で行っていましたが、いつの頃か私も一緒に行くようになりました。大変な思いで頑張っているマキ子さんの姿を見ると私等の足元にも及びません。すばらしい奥様の働きを見させていただき、いつも

反省して帰ってきました。豊実に行って皆様にお会いするのが楽しみになりました。

佐藤：何といっても私がガンになったことをきっかけに、絹代さんと信頼関係が生まれたことでしょうね。ガンの取り持つ縁ですね。私がガンと聞きどう思われましたか。

絹代：佐藤先生がガンと聞いたのは、浦和での食事会に参加する前でした。佐藤先生のガンの話が皆さんの前で始まった時に、ガン、イコール死の様な話になりそうだったので、ガンは治る、医者言うことを聞いたらだめだと、内心思ったのですが、皆さんの前で口に出せません。帰り際に川竹先生の本をそつと渡しました。一冊の本から川竹先生の教えに気付き、即実践されたと言う方は他にはいません。流石佐藤先生です。

佐藤：絹代さんご自身もガンになって、病院の屋上から飛び降りて死のうかと思った時があったそうですが。

絹代：私がガンになったのは42歳、胃がんでした。丁度主人が仕事を始めた頃です。胃を切除しましたから、食べ物食が入っていきません、体重も10kg減りました。苦しくて、病院の4階から飛び降りたら楽になると頭をよぎりました。

その頃はガンの知識等はありません、医者に言われるままに抗ガン剤をやりました。吐き気で食べられず、どんどん衰弱し、思い切って抗ガン剤をやめました。今思えばそれが正解でした。

佐藤：絹代さんの周りにガンになった方が多くいました。その人たちに、とても尽くしていたことを見てまいりました。私も食事を御馳走になり、思い出があります。

絹代：なぜガンになったのか、原因あっての結果です。当然自分で造った病気

です。自分で造った病気ですから自分で治すのです。あらゆる事をやりました。尿療法、ビワ、スギナ、ドクダミ等々、ガンに良いと言う事はやりました。私はガン患者と会って話をするのが大好きです。そして、どうして治したのか聞きます。人それぞれ治し方全部違います。二人の方に聞いてみました。

一人の方は悪性リンパ腫、東大病院に入院して余命いくばくもなく、見舞いに行ったときはこの世の人とは思えない、薬づけで無菌室を行ったり来たり体はブヨブヨでした。しばらくして、その方に会った時にはすっかり良くなっていました。その方が言うには、主治医とケンカして逃げ出したとの事、今迄お世話になった方へのお返しは、自分が元気になる事と、感謝の気持ちで町内を朝早く歩いたそうです。食事でもサプリでもない。

あと一人の方は、同級生で今でも年に2度程お会いします。やはり食事でもサプリでもなく、すっかり病気を忘れていたと、肺がんの方です。信じられません、心を変える事によって、体の中では医学では説明出来ない不思議なことが起こるという事を知りました。

佐藤：ビワの葉をよく送っていただきました。私も一度取りましたが、もぎ取るのも大変ですね。ありがとうございます。そして、「佐藤さんはガンになっても治る人です」といつも電話で励まされました。本当に嬉しくなりました。何時もホームページを開いて下さり、その反応をありがたく思います。

絹代：1ヶ月か2ヶ月に1回、ふくろうたよりが送られてきます。ホームページに載せられた文章もあり、佐藤先生の文章は考えさせられ事があります。だから、私は3回読み返します。とても勉強させられます。前向きに実行していなければ毎日あのような文章は書けません。いつも楽しみに読ませていただいております。

平成29年4月13日

会員各位

特定非営利活動法人コスモ夢舞台
理事長 佐藤 賢太郎

平成29年度通常総会の開催について

標記総会を下記のとおり開催しますので、出席くださるようご案内します。

なお、出席できない場合は、お手数をおかけし恐縮ですが、下方の委任状に記名押印のうえ、総会前日までに提出くださるようお願いいたします。

記

- 1 日時 平成29年5月5日（金）午後13時30分～
- 2 場所 和彩館
- 3 議題
 - (1) 平成28年度事業報告及び決算について
 - (2) 平成29年度事業計画及び予算について
 - (3) その他

委 任 状

私は、
を代理人と定め、次の権限を委任します。

- 1 平成29年5月5日開催の特定非営利活動法人コスモ夢舞台通常総会に出席し議決権を行使すること

社員氏名

㊟